

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	埼玉女子短期大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	サイタマジョシタンキダイガク
	大学等名1(代表大学等)学校所在地	関東地方(東京都を除く)
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立短期大学
	大学等名2(連携大学等)	
	大学等名2(連携大学等)学校所在地	
	大学等名2(連携大学等)学校種別	
	科目名	インターンシップA、B、C、D、E、F
	学部・研究科等名	商学科・国際コミュニケーション学科
	担当教職員名・役職	キャリアサポートセンター係長 金子美和・キャリアサポートセンター係員 三浦みなみ
受講者数(H29年度実績)※インターンシップ参加者数	224	
受入企業等数	81	
受入企業等名	<a href="http://www.saijo.ac.jp/career/internal.php">http://www.saijo.ac.jp/career/internal.php</a>	
インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 2.有給インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ 11.その他	
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	医療コースもあるため、病院やクリニック、薬局等医療機関でのインターンシップも行っている。	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容(記述欄)	
1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	業務への従事ということでは、例えばホテルでは1週間ずつ料飲と宿泊をそれぞれ体験したり、現場での業務体験終了後、本社にて「自分がこのホテルの営業担当者だったら」というテーマでホテルの魅力をプレゼンする機会を設けたりしている場合もある。課題の解決ということにおいては、例えば広告会社にて、営業担当者の同行や新聞社見学等のプログラムを通し、最終的に「高校生向けの学校ガイダンスを活性化させるには」という課題に対して案出しを行う例もある。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	1.当該インターンシップは、教養教育科目として実施している 2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	1年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	1～3単位
2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	短期大学のため、1年次の夏期休業期間中と春期休業期間中にインターンシップを行うこととしている。入学して間もないうちから、低学年のキャリアに対する意識を高めていく狙いもある。実習日数が5日～10日で1単位、11日～20日で2単位、21日以上で3単位認定している。	
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい	
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている 2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている 3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている 4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している 5.その他

要素③	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容(記述欄)	事前オリエンテーションの中で、企業の担当者の方をお招きし、講演していただく回を設けている。自分が実際に行く企業ではなくとも、社会に出る心構えを身に付けさせ、感想文も書かせるようにしている。
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている 3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している 3.その他
	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	インターンシップ初日と最終日には、必ずメールもしくは電話での報告を義務付けている。また、教職員間で情報を共有しながら、気になる学生には期間中に都度こちらからメールを送るなどして様子をうかがうようにしている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	事前オリエンテーションは計6回あり、全出席が必須。まずは元客室乗務員の教員等から直々に社会人としてのマナーや身だしなみの指導を受けるが、礼状の書き方や相手に好印象を与える方法など実践的である。その他前年にプログラムに参加した先輩から話を聴いたり、企業研究レポートをグループに分かれて発表したりする。企業の方の講演や、キャリア担当教職員のアドバイスを通し、実習前と後で自身の変化を感じ取るよう促している。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ期間中は毎日日誌をつけさせ、終了後の最終オリエンテーションで、日誌をもとに「実習で大変だったこと・嬉しかった経験・体験してみる前後での職種へのイメージのギャップ・実習前に立てていた目標に対してどのようなことが学べたか等」を発表させるようにしている。また一方的に発表させるのではなく、小グループを作らせてインタビュー形式にし、発表以外に質問力も養うことを目的としている。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	どのような遠い実習先でも必ず教職員が一度は現場にうかがい、学生と一対一での面談を実施している。目標の再確認や、困っていることを聞き出すようにしている。また、学生だけでなく、企業の方ともお話し、実習や事前学習に対する意見、アドバイスをいただくようにしている。	
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 4.その他
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	本学は1年次の11月～12月に1年生全員とセンターの職員が必ず個人面談を行うことになっている。その場で、既に夏期インターンシップに参加した学生からは感想を聞き取り、その後春に参加する学生からは目標を聞き出すなどして、その内容を個人面談票に記録している。
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ後のアンケートで、インターンシップを通しての変化や成長したことを書かせ、意識の変容の確認をしている。また、日々つけている日誌の最終ページにまとめとして、自らが期間中にどのように成長したか記録させるようにしている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している 2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日～7日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間1週間～2ヶ月(うちインターンシップ実施期間5日～30日程度)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容(記述欄)	
5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入企業の特性に合わせて、期間はさまざまである。課題解決型で、毎日異なる業務を体験したり、動物園等で異なるエリアを回るといった場合には、1週間程度の実習も多い。その一方で、ホテルやカーディーラーでの接客の体験は、実施期間としては休業期間中2カ月間ずっとということも多く、各企業のホスピタリティをじっくりと学んでいる。	
6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい	

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している 3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている 4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している 7.その他
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	受入企業訪問の際に、企業担当者の方と日誌や実習プログラムについて話し合い、いただいた意見を実際に活かすようにしている。
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	学校で作成した評価報告書を企業担当者に手渡し、・実習態度・仕事の理解・仕事への適応力という三項目、および総合評価、学生指導にあたっての今後のアドバイス等記載してもらうようにしている。学生の日誌にも1週間ごとに企業担当者にコメントを書きってもらうようになっており、学生の目標達成にご協力いただいている。事前オリエンテーションで、受入れ企業の中から1社講演いただいている。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="http://www.saijo.ac.jp/career/internal.php">http://www.saijo.ac.jp/career/internal.php</a> 上記サイトに概要は載っていますが、より詳細が記載されているものは紙面にてございますので、関係資料を1部郵送いたします【別途提出済み】
問い合わせ先	大学等名	埼玉女子短期大学
	担当部署名	キャリアサポートセンター
	担当者役職名	係員
	担当者氏名	三浦みなみ
	電話番号	042-986-1517
メールアドレス	career@saijo.ac.jp	